
半世紀余り受け継がれてきた、四国四県の絆

～第55回四国老人クラブ大会が開催されました～

四国老人クラブ大会の歴史は古く、全国的に老人クラブ結成の機運が高まるなか、昭和34年8月本県（徳島市渭北公民館）において「四国地区老人クラブ連絡協議会」が開催され、四国老人クラブ連合会の設立や老人クラブの発展策などが協議されたことが始まりとされています。以降半世紀余りにわたって、受け継がれてきたこの大会は本年度で55回目を迎えました。



8月1日、徳島市のあわぎんホールにおいて、「第55回四国老人クラブ大会」が開催され、会場溢れんばかりに四国各県の老人クラブリーダーら約360名が参集しました。



細井 啓造 県老連副会長の開会宣言に続き、伊丹 一夫 県老連会長が歓迎の挨拶を述べ、高齢者や老人クラブにとって厳しい情勢ではあるが、四国四県の老人クラブリーダーの英知を結集し、難局を乗り越えて欲しいとされました。

続いて表彰に移り、各県において老人クラブの発展に寄与された14名に対し、伊丹大会長から表彰状と記念品が贈られました。なお、本県関係者は下記のとおり。

樋口 静代（徳島市）、藤本 好信（吉野川市）、松下 高雄（上勝町）
走川 輝一（那賀町）、宮林 勇吉（海陽町）

ご臨席いただいた来賓からの祝辞に移り、飯泉 嘉門 徳島県知事からは、四国は全国平均よりも早く高齢化が進んでおり、今後地域を支えていく存在として、また防災などの地域課題解決に向けても、高齢者が中心的役割を担ってほしいとされました。その後、杉本 直樹 県議会議長、岸 一郎 県社会福祉協議会会長にも祝辞をいただき、花



を添えていただきました。最後に受賞者を代表して、徳島市の樋口さんから謝辞が述べられ、式典の部を終了しました。

記念講演は、徳島県医師会の常務理事で、鳴門市で整形外科を開業されている、齋藤義郎先生をお招きし、「ロコモティブシンドロームとは ～転倒予防～」と題して、ご講演いただきました。講演では、運動器の障害で、転倒の危険性が高まり、要介護になるリスクの高い状態（運動器症候群）のことを、ロコモティブシンドロームと言い、転倒予防に努めることが介護予防になること、そのためにも日頃から運動器の機能低下を予防する運動が大切であるとされ、イスを使った軽運動を4名の助手の方に実演いただき、実際に立って実践する参加者もおられました。

休憩をはさみ、いきいきクラブ体操（女性委員会3名の実演）で気分をリフレッシュした後、大会後半に移り、各県の会長を議長団とする事例発表に入りました。地元小学校と稲刈りやしめ縄作り、絵手紙等の交流を行う香川県観音寺市の事例や、会員の増強に向け、啓発リーフレットの作成や会員に対するアンケートを実施して運営に活かそうと取り組む愛媛県砥部町の事例、休耕地を利用したさつま芋づくりやボーリング大会、ソフトボール部の結成等ユニークな取り組みを行う県内の若手部を紹介した高知県土佐市の事例が発表され、最後に本県上勝町から、毎年夏に行い好評を得ている「老人大学」の取り組みや新規会員獲得のために創設した「芸能鑑賞部」



が紹介され、今後上勝町ならではの内容で魅力あるクラブづくりを心がけ、多くの仲間迎え入れたいとされました。

質疑を終え、大会宣言の決議に移り、愛媛県の鈴木尊会長が宣言文案を朗読、満場一致の拍手で宣言文を決議、健康長寿をめざした健康づくり・介護予防活動の推進等5項目の実践を誓いました（別頁参照）。

閉会行事に移り、次期開催県である香川県の藤川 恵一 会長が挨拶、最後に岩佐

徹 県老連副会長による万歳三唱を行い、吉尾さだえ 県老連副会長の閉会宣言で全日程を終了しました。

今回の大会運営では、県老連若手委員会の有志9名が、協力員として活躍、司会や受付、舞台転換、接待などの業務をお願いしました。また、受付では徳島市老連若手部の方々も応援に駆け付け、大勢の受付業務を務めていただきました。おかげで事故もなく無事終了することができました。また、各参加者に配布された記念品「ふくろうのマスコット」は、徳島市老連女性部の手づくりによるもので、大変喜ばれていました。

大会終了後は、会場をグランドホテル借楽園に移し、参加者相互の親睦を目的とした懇親会を開催、徳島ならではの料理（そば米汁や鳴門鯛の造り等）をいただきながら、他県からの参加者との交流を深めました。最後には、徳島市老連による阿波踊りのアトラクションもあり、参加者も一緒に踊るなど大いに盛り上がりました。



大会宣言

私たち老人クラブは、これまで半世紀以上にわたり、高齢者を取り巻く様々な問題に対応しながら、「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動を軸に、地域支え合いや閉じこもり予防などの活動を通じて、地域社会への貢献に尽力してまいりました。

しかし、地域社会における人間関係を含めた地域力や仲間力が弱まり、また、厳しい財政状況が続く中で、介護や医療、年金など高齢者を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。

こうした中、高齢者の現状や多様なニーズを踏まえつつ、各世代間の連携による新たな絆社会の構築や高齢者の活躍の場をどのように創り出すかが課題であり、老人クラブもその一翼を担う重要な存在であります。

今、ここに四国四県の老人クラブ会員は、友情と連帯の輪を広げながら、安全・安心で、楽しく、そして豊かに暮らせる地域社会づくりを目指し、次の事項の実践を宣言します。

記

1. 健康長寿をめざした健康づくり・介護予防活動の推進
1. 魅力あるクラブづくりと積極的な呼びかけによる会員増強の推進
1. 誰もが安心して暮らせる地域支え合い活動の推進
1. 老人クラブに対する理解の醸成に向けた情報発信の推進
1. 豊富な経験や知識を活かした次世代育成支援活動の推進

平成25年8月1日

第55回四国老人クラブ大会